

令和 4 年度
「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立田島中学校
令和 5 年 3 月 20 日

(様式 1)

大阪市立田島中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

コロナ禍での学校運営3年目となった。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による学校行事や教育内容の変更などを講じながらの2年間であった。「ピンチをチャンスに」をテーマにウィズコロナを見据え、オンライン学習やデジタル教材の活用、授業配信など「学びの保障」へ向けて取組を行った。また、コロナ禍での「安全・安心」の確保のため、日々の消毒や手洗いうがい、黙食の徹底など基本的な感染防止対策を常に啓発し、実行した。その結果、感染拡大を防止することができ、教育活動をほとんど止めることなく学校運営することができた。

大阪府チャレンジテストにおいては、数値目標3項目について、3年生は、すべて達成できなかつたが、2年生は、すべて達成できた。数値結果を分析し、基礎・基本の定着へ向け、さらなる授業改善を行っていきたい。具体的には、「アウトプット活動は、学力の定着に有効である」ことが予想でき、「自分の意見をまとめる・一定の分量を発表する（説明する）・他者の意見を聞き取り自分にフィードバックする」などの活動を授業で取り入れることが大切である。逆に「簡単な内容に多くの時間を費やす・短答で答えられるやり取りが中心（説明する機会が少ない）・課題解決型（探求型）に取り組む経験が少ない」授業では、学力の定着はできないと考える。このことから、授業のレベルをさげることなく、アウトプット活動や試行錯誤する場面を準備するとともに要支援生徒への手立ても準備していくことが、求められる授業デザインであると考え、授業改善を行っていく。

コロナ禍の影響で、G I G Aスクール構想が前倒しされ、1人1台学習者用端末を活用し、生徒が互いに学び合う協働的な学びや、思考力・判断力・表現力の育成につながる授業スタイルが求められている。その中で各教科が必要に応じて1人1台学習者用端末を活用している。各学年においても1人1台学習者用端末を活用し、総合的な学習の時間の取組を行った。具体的には、校外学習で写真を撮影し、その後の壁新聞を班員の共同制作によって作成したり、「平和について考える日」では、戦争が起こった原因を調べ、平和について考え、発表する機会を設けたりした。他にも職業調べでは、資料集めに活用したり、「私の意見」では、各クラスで一人ひとりの発表を実施し意見交換をしたりした。また、欠席している生徒に向けてオンラインで授業の様子を配信し、学びの保障を行った。

小中一貫校が開校し、3つの柱の1つである「性・生教育」においては、年間各学年3時間程度実施した。その中でも昨年度は「文部科学省 学校における生命の安全教育推進事業(委託)」として全市公開授業を行った。また、読売新聞全国版で2年生のデータDVについて取り上げられるなど取組に対して、評価も受けた。他にも助産師によるティーンズヘルスセミナーを全学年で実施するなど将来をよりよく生きるために知識を学び、自分が幸せに生きるためにどうすればよいかを考え、性の悩みや不適切な行動については、丁寧な対応を行っている。これらの取組を続けている結果、生徒アンケート「自分には良いところある」では昨年度67%から70%と3ポイント上昇した。

小中一貫校が開校し、準備委員会で計画したことを踏まえ、課題を1つ1つ解消しながら、新しい学校を作っていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査における不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査における前年度不登校生徒の改善の割合を、毎年、増加させる。
- 令和7年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度より6%増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます」に対して、最も肯定的に答える生徒の割合を、35%以上にする。
- 令和7年度の大都市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、76%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に答える生徒の割合を50%以上にする。
- 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合の指標として、年度末の校内調査における「(平日)毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を令和7年度調査において、85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、80%以上にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。また、学校閉校日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。
- 令和7年度末の校内調査における生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和3年度より3冊増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、80%以上にする。
- 年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、75%以上にする。
- 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を70%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を45%以上にする。

学校園の年度目標

- 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合の指標として、年度末の校内調査の「(平日)毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、70%以上にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において、生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和3年度より0.5冊増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

4月に小中一貫校が開校したものの、既存校舎の改修工事やサブグランドとメイングランド工事等、12月まで工事の中で制限が多い中、できることを嘆くよりも、できることを1つ1つ着実に行うように教職員も生徒も取り組んだ。

1月には、学校関係者の皆様とともに開校記念式典を開催することができた。

【安全・安心な教育の推進】

生徒アンケートの結果から「いじめはいけない」との認識や「スマホの危険性」への認識については、肯定的な回答が多かったことは、評価できるが、実際の学校生活において、いじめやスマホを通してのトラブルが無くなつたわけではない。引き続き、継続的に「いじめ」や「情報モラル」をテーマにした教育を行っていく必要がある。

不登校生徒については、決して少ない数ではなく、改善例も多いとは言えない。本校に限らず、全国的な課題といえる。来年度は、不登校支援に特化した分掌を設け、課題解消を実現させていきたい。

スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、子サポ推進委員は、毎週連携を図り、その他の関係諸機関においても必要に応じて連携している。

「性・生教育」について、「大阪市がんばる先生支援研究」「文部科学省 生命の安全教育実践校」の指定を受けて9年間を通して取り組みを進めた。助産師や外部講師、教員による授業や小中合同公開授業および他職種も含めたセッションを行つた。また、教職員や子どもに関わる関係者を対象に、児童精神科医による講演会を実施した。小中一貫校の取り組みの1年目として小中の教職員が一緒に授業づくりができたことは成果である。生徒アンケートの結果から「自尊感情」について、向上が見られた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪府チャレンジテストにおいては、数値目標について、3年生は達成できなかつたが、2年生は達成できた。昨年度も同じ結果であった。1年生から2年生になる時の伸びは見られるが、2年生から3年生への伸びに課題がある。今後、分析を行い、具体的対策を講じていく。

今求められる「主体的・対話的で深い学び」について生徒アンケートからも、目標値を大きく上回り、校内の研究授業や研究討議などの成果が出てきている。今後も切れ目なく授業改善についての研究や研修を行い、学力向上に繋げていきたい。

また、GTECの結果や運動に関する生徒アンケートにおいて、それぞれ目標値を5.9ポイント、10.1ポイント上回り、大きな成果を出すことができた。

【学びを支える教育環境の充実】

多くの授業で学習者用端末を活用し、生徒は学習者用端末を使って調べ学習や資料の作成、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができるようになっているが、生徒アンケートの結果から十分とは言えない。

図書館については、小中合同の図書館の良さを活かしたり、玄関棟ピロティにサテライトライブラリーを開設したり、ブックトラックの活用をしたりするなど、読書環境を整えた。また、ビブリオバトルを全校の取り組みとして実施することができ、学校チャンプ本は、大阪府大会に出場し、決勝まで進むことができた。

しかし、生徒アンケートからは、読書活動が定着していると言える結果ではなかった。

(様式 2)

大阪市立田島中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、80%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、80%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、75%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート（年3回）および相談申告機能を、1人1台学習者用端末を活用して実施する。 ・ブロック化による学校支援事業で、Q-U テストを実施し、生徒の実態把握を図るとともに、実態に基づいた指導を行う。 ・区役所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子ども相談センター等のいずれかの関係諸機関との連携を週1回以上行う。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>性と生を考える取組みを推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間各学年1回以上の取組みを実施する。 ・生きるチカラまなびサポート事業を活用して、出前授業を実施する。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>9年間カリキュラムの目標を「自分らしい生き方を実現するための力を育む」と定めて、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成をする。</p>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きるチカラまなびサポート事業を活用して、出前授業を実施する。 ・校内調査における「将来の夢や目標がある」と答える生徒の割合を、前年度より増加させる。(前年度 71%) 	
<p>取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>芸術鑑賞を通して、豊かな情操や感性を養う。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートにおいて、鑑賞行事について肯定的に回答する生徒の割合を 90% 以上にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12月実施の生徒アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、87.8%で、目標値を7.8ポイント上回った。今までの取組や、小学校からの積み重ねもあり、いじめはいけないことだと認識できている。 ○12月末現在、不登校生徒の在籍比率は9.7%。（昨年度9.6%）である。 家庭訪問や電話連絡等を行ったり、関係諸機関との連携を進めたりしているが、改善はみられていない。 ○昨年度は、改善した生徒が5名だった。今年度は12月の時点で18名が不登校にあたる。その中で、昨年度不登校で今年度欠席30日以上に当たるまらなかった生徒が2名、当てはまつたが変化がみられ、欠席が減少した生徒が4名だった。昨年度と比べ、大きな変化は見られない。区役所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子ども相談センター等と連携しながら、改善の方法を探っていく。
<p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12月実施の生徒アンケート「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、78.2%で、目標値を1.8ポイント下回った。 体育大会や文化祭などの学校行事では、生徒主体に取り組み、盛り上げることができた。日々の生活、学習の中にも楽しさややりがいを感じられるようにする必要性を感じた。 ○12月実施の生徒アンケート「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、98.0%で、目標値を23ポイント上回った。 アンケートでは、危険性について理解はしているようだが、保護者から寄せられるご意見や、生徒間トラブルは、スマホに関わるものが多い。2月に7.8年生で情報モラル教育を行った。 ○12月実施の生徒アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合は、74.1%で、目標値を4.1ポイント上回った。（前年度70%） 自己肯定感を高めるために、授業以外にも、委員会活動や係活動、行事等を通して、活躍の場を作った。また、キャリア教育で、自分自身のことや将来のことを考えさせ、自分の良さを気づかせるよう取り組んだ。 <p>【各取組内容の進捗状況】</p> <p>①いじめアンケートは計画通り、年3回実施し、Q-Uテストもすでに実施することができた。 加えて、2学期初めには教育相談を行い、3学期末にも教育相談を実施予定にしている。</p>

その中で気になる生徒には声をかけたり、訴えのあった生徒には対応したりすることができた。

連携に関しても SC や SSW、子サポ推進委員の方々に毎週来ていただいて、連携は取れた。今後も、普段から生徒の変化に気づくことができるよう、教職員が見守っておくことと、引き続き取組を継続していく必要性がある。

②中学校の性・生教育、小学校の生きる教育について、大阪市がんばる先生支援研究の指定を受けて 9 年間を通して取り組みを進めた。性の分野では助産師や外部講師、教員による授業を 9 月の土曜授業参観で行った。

9 月 30 日には文部科学省 生命の安全教育実践校として小中公開授業および他職種も含めたセッションなどを行った。参加者アンケートでは、最も肯定的な回答の「充実していた」が 90% 近くであった。小中一貫校の取り組みの 1 年目として小中の教職員が一緒に授業づくりを行ったことも成果と考える。

性・生教育事前事後アンケートでは、「自分にはよいところがあると思いますか」という設問に対して肯定的回答が、7 年生で +7.3% 、8 年生で +6.2% に増加し、校内生徒アンケートにおいても 74.2% で前年度から +4.2 ポイント増加し、自尊感情の向上へ期待できる実践であった。

2 月 22 日には生命の安全教育に関する講演会・教職員研修を実施し、児童精神科医による講演「思春期の子どものこころのそばにいること—傷つきとレジリエンスの視点から」では思春期の子供たちの様子や自分を傷つけてしまう行動につながる生徒の心理面について学んだ。参加者や 81 名で、ほぼ 100% 近くが「講演会が充実した」と回答した。

③年度当初の計画通り、キャリアパスポートや職業講話などのキャリア教育を実施することができた。

区役所との連携もコーディネーターを活用し、スムーズに行うことができた。

④芸術鑑賞は、11 月 2 日に「和太鼓」鑑賞を実施。事後アンケートにおいて、鑑賞行事について肯定的に回答する生徒の割合は、99.4% で、目標値を 9.4 ポイント上回った。

小学生と一緒に見ることで、盛り上がるところは一緒に盛り上がり、静かに見るときは、小学生も中学生の真剣さに引っ張られ、互いに良い刺激があった。演者の人と共に場を盛り上げ、一体感もあり、芸術鑑賞でしか味わえない感性を養えた。

次年度への改善点

全市共通目標

○今後も、「いじめについて考える日」などの際に、生徒たちに考えさせる機会をつくっていく。

○担任や学年に任せることだけでなく、学校全体で対応を検討しなければならない。

学校園の年度目標

○安心できる集団作りを進める。

○小学生から、情報モラル教育を計画的に進める。中学校においては、2 学期の前半までに取組を進める。

【取組内容】

③生徒アンケートで「将来の夢や目標がある」の肯定的意見が前年度よりも 9.8 ポイント低かったため、事前事後の指導でより具体的に将来を考えられるように工夫していく必要がある。

④座席の配置や芸術鑑賞の内容によっては、学年の分け方の工夫も必要。

(様式 2)

大阪市立田島中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。</p> <p>○大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を70%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を45%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○規則正しい生活を身に付けている生徒の割合の指標として、年度末の校内調査の「(平日)毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を、80%以上にする。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック化による学校支援事業および区の校長戦略支援予算を活用し、英検を全学年で実施する。 ・ブロック化による学校支援事業を活用し、8年生でリーディングスキルテストを実施する。 ・漢字検定を希望者で年2回実施する。 <p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 学びサポーター、学校元気アップ地域本部事業を活用し、放課後学習会を実施し、主体的な学びを推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則、毎日放課後学習会を実施する。 <p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 小学校高学年の授業に入り、理数教育を推進する。</p> <p>指標</p>	進捗状況 B B B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック化による学校支援事業および区の校長戦略支援予算を活用し、英検を全学年で実施する。 ・ブロック化による学校支援事業を活用し、8年生でリーディングスキルテストを実施する。 ・漢字検定を希望者で年2回実施する。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 学びサポーター、学校元気アップ地域本部事業を活用し、放課後学習会を実施し、主体的な学びを推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則、毎日放課後学習会を実施する。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 小学校高学年の授業に入り、理数教育を推進する。</p> <p>指標</p>	B

- | | |
|---|--|
| ・数学科から 6 年生算数の授業（週 3 時間）を行い、理科から小学校 5 年生理科の授業（週 3 時間）を行う。 | |
|---|--|

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標

- 12 月実施の生徒アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、39.5%で、目標値を 9.5 ポイント上回った。
10 月の調査から 8.6 ポイント上昇したことからも後半に話し合い等の活動が増加したことがうかがえる。話し合い活動をまとめる作業で、パワーポイントなどを活用する姿が、各学年・各教科で何度も見ることがあった。
- チャレンジテストにおいて、国語科では、対府平均比は 3 年生が 96.1%、2 年生が 96.0% で、同一母集団で比較し、3 年生は 2 ポイント低下であったが、2 年生は 3.2 ポイント向上した。
国語科では、漢字テスト、単元テストの実施で緩やかではあるが、実力をつけてきている生徒が見受けられるようになった。また、各学年で実施したアンケートで国語は好き、わかると回答した生徒が 8 割いた。
- チャレンジテストにおいて、数学科では、対府平均比は 3 年生が 88.7%、2 年生が 100.0% で、同一母集団で比較し、3 年生は 5.3 ポイント低下であったが、2 年生は 9.4 ポイント向上した。
数学科では、毎時間授業の初めに 5 間程度の復習問題をしている成果もあり、全範囲を幅広くできるようになっている生徒が増えてきた。アンケートをとった結果、数学が好き、苦手だったけど、楽しくできたと回答した生徒が 7 割を超えた。
- GTEC 対策冊子、直前トライアルテストを実施し、受験した結果、40/54。英検 3 級相当の割合は、75.9%で、目標値を 5.9 ポイント上回った。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合が 55.1%で、目標値を 10.1 ポイント上回った。コロナ禍ではあるが各学年でスポーツ大会などの取り組みを行なった。

学校園の年度目標

- 12 月実施の生徒アンケート「(平日) 每日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合は、81.0%で、目標値を 1 ポイント上回った。
集会や各クラスで、時間を守ることや生活習慣を整えることの重要性を話していること、各家庭の協力が得られていることが要因だと考える。ただ、欠席や遅刻をする生徒が固定化されているため、その生徒たちへのアプローチが今後の課題である。

【各取組内容の進捗状況】

- ①国語では、授業目標が理解できるような確認発問をした。Teams を使い、予想問題作成や、班や個人で課題に取り組み、発表させることで、言語活動を活発にし、思考力、判断力、表現力を培った。
英語では、チームティーチングを行い、机間指導をすることによって、より細かな指導ができた。また、学年により異なるが習熟度別授業を行った。
英検は、9 年生は 10 月、7 年生と 8 年生は、1 月に実施。リーディングスキルテストは、

<p>8年生が1月に実施。漢字検定は、8月と1月に希望者で実施した。各テストとも生徒は真剣に取り組むことができた。</p> <p>英検の合格率を意識し、3学年とも実施した結果、良い成績を収めることができた。</p> <p>②校内諸事情により、学習会の実施会場を変更することが多かった中、学びサポーターや学校元気アップ地域本部事業の方々の協力のもと、柔軟に対応していただき、基本的に予定回数の実施を達成することができた。また、年度途中から学びサポーターを6名増加させたことで学習会をより充実したものにすることできた。</p> <p>③小学校高学年の授業に、理科：週5時間、算数：週3時間入り込みを行った。</p> <p>机間指導での教員の手が増えたため、児童へのサポートが充実した。また小中の連携により授業改善にも努めることができた。</p>
--

次年度への改善点

全市共通目標

- 学習者用端末を多く使えばいいのではなく、授業のどの部分で効果的なのかを、教科会等で分析や打ち合わせを行い、教科主任会などでその内容をシェアするなどすることで、今年度よりもさらに活発な活用をめざしたい。
- ICTを活用し、引き続き創意工夫し実力向上につとめる。
- 英語科で情報を共有し、次年度のチャレンジテスト、GTEC、英検3級取得を目指に掲げ取り組んでいきたい。
- コロナの状況をみて、体育的行事を継続的に取り組んでいく。

学校園の年度目標

- 生活習慣を整えるための固定化された遅刻・欠席生徒の保護者との連携をどのように進めるか。生徒自身をどうサポートしていくか。

【取組内容】

- ①国語では、授業の組み立ての際、集中力が欠けないよう、創意工夫する。
英語では、学習者用端末を今以上に活用し、スピーキングやリスニング力の充実を図りたい。また、C-NETを今年度以上に巻き込んだ授業を展開したい。
- ②学びサポーターの配置人数の増加と配置日数を増加させ、安定した放課後学習会が実施できるよう調整していかなければならない。また、サポーターに対して、より充実した学習会にするためにも参加する生徒対応等の研修を行っていかなければならない。
- ③小中の各行事やテストなどによって、授業に入り込むことができないことがあった。連絡を密にすることで授業の調整や連携をスムーズ行っていく必要がある。

(様式 2)

大阪市立田島中学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、70%以上にする。</p> <p>○ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査において、生徒 1 人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和 3 年度より 0.5 冊増加させる。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 8、生涯学習の支援】</p> <p>学校図書館を拠点に、学校全体で読書環境の整備・充実を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルを実施する。 ・昼休み、放課後は、毎日図書館開館するとともに、玄関ホールに図書スペースを設ける。 ・ブックトラックを活用して、学級や校内の図書スペースの本の入れ替えを行い、読書に親しむ環境を作る。 ・校内調査における「読書をしている」と答える生徒の割合を、前年度より 5 ポイント以上増加させる。（前年度 43%） 	B
<p>取組内容②【基本的な方向 6、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>1 人 1 台学習者用端末持ち帰りによる家庭学習の推進</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 人 1 台学習者用端末を原則毎日持ち帰らせ、課題や自学自習に取り組む。 ・授業者全員が 1 回以上、Teams を活用して、課題を与える。 	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>全市共通目標</p> <p>○12 月実施の生徒アンケート「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「毎日・ほぼ毎日」と答える生徒の割合は、53.1%で、目標値を 16.9 ポイント下回った。多くの授業で学習者用端末を活用し、常に Teams で授業や行事</p>

の配信などを行っているが、目標値には至らなかった。

生徒は学習者用端末を使って調べ学習や資料の作成、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。

ICT 機器を相互利用した公開授業を、全教員が取り組むことができた。

- ゆとりの日については毎週月曜日に設定し、実施することができた。学校閉庁日においても夏季休業中に 8 月 10・12・15 日に設定し、冬季休業中には 12 月 28 日と 1 月 4 日に設定し、実施することができた。

学校園の年度目標

- アンケートで読書していると答えた生徒が前年度 43%に対し、今年度は 36%だった。要因としては、毎日開館が週 3 回になったこと。図書館の場所が少し遠くなつたことが考えられる。

生徒 1 人当たりの学校図書館年間貸出冊数は、今年度から小中合同の図書館になつたため、昨年度比較ができない。

初夏のイベント、昼休みの来館促進音楽など、生野区マスコットキャラクター「いくみん」を使用したポスター、文化委員によるポスターなど趣向を凝らし、啓発することができた。

【各取組内容の進捗状況】

- ①ビブリオバトルの学級、学年大会を経て、文化祭で学校大会を実施した。チャンプ本は、大阪府大会に出場し、決勝まで進むことができた。

図書館司書、元気アップコーディネーターを活用し、学校として昼休み、放課後は、毎日図書館開館するとともに、玄関棟ピロティにサテライトライブラリーを開設した。

ブックトラックの活用や文化委員による学級や校内図書スペースの本の入れ替えを行い、読書に親しむ環境を作っている。

- ②授業者全員が Teams を使った双方方向の授業を実践や、課題を出したが、毎日 1 人 1 台学習者用端末を使った課題や宿題が出ているわけではないので、持ち帰り学習が定着しなかつた。

次年度への改善点

全市共通目標

- 各教科の裁量ではなく、学校全体の取り組みとして学習者用端末を使う習慣を設ける。小中連携で学年ごとに ICT スキル習得に向けた目標を設定する。授業実践の共有、教員研修の実施。ICT 担当教員チームなどの体制作りなどが必要である。

- ゆとりの日については意識的に利用している者もいるが、現状を鑑みるとなかなか利用できていない者も多く、今後更に推進していかなければならない。

【取組内容】

- ①図書館の来館率をあげていく。

読書に興味を持つように具体的な手立てを打つ。

サテライトライブラリーについては、活用率上昇に向けた改善が必要。

小学校と連携してより活発な図書館活動を展開したい。

- ②各教科の裁量ではなく、学校全体の取り組みとして Navima 等を活用し、学習者用端末を持ち帰り学習の習慣を設ける。また、それを管理する体制が必要である。